

世界の記憶を守るために

山本作兵衛コレクション修復へ

国際連合教育科学文化機関（ユネスコ）の世界記憶遺産に登録された

山本作兵衛氏の炭坑記録画や記録文書（山本作兵衛コレクション）。

この世界の記憶を未来へと伝えるために、保存に向けた取り組みが進められています。

1 状態調査・修復に向けて

6月25日、石炭・歴史博物館が所有する山本作兵衛氏の炭坑記録画の一部と、日記や雑記帳などの記録文書が、九州国立博物館（太宰府市）に運び出されました。今回、九州国立博物館へと運ばれたのは、山本作兵衛コレクションの状態を調査し、修復などを行うためです。



↑ 厳重に荷造りされた山本作兵衛コレクション

石炭・歴史博物館には、世界記憶遺産に登録された山本作兵衛コレクション697点のうち、627点が収蔵されています。そのうち、炭坑記録画の水彩画118点、墨画163点、日記6点、雑記帳や原稿など36点を搬出。また、世界記憶遺産に登録されていない炭坑記録画についても、水彩画23点があわせて運び出されました。



↑ 作品群が収められたダンボールが運び出されました

2 九州国立博物館へ

山本作兵衛コレクションの多くは、一般的に劣化しやすいとされている酸性紙が使用されています。そこで、8月1日号でも紹介した、山本作兵衛氏の炭坑の記録画並びに記録文書の保存・活用等検討委員会での検討結果を受けて、状態調査や修復などを行うことになりました。

この日、運送業者のトラックで慎重に搬出された山本作兵衛コレクションは、約1時間の道のりを経て、無事に九州国立博物館に到着。石炭・歴史博物館の職員らが見守る中、文化財の保存修復を専門としており、今回の調査や修復、複製画の作成などの作業を委託されているNPO法人文化財保存支援機構の大林賢太郎副理事長（京都造形芸術大学准教授）が、運送による傷などが入っていないかを丁寧に確認しました。石炭・歴史博物館の朝鳥和美学芸員は「世界記憶遺産に登録されてから初めて館外へ持ち出すことになったので緊張しています。補

修することで、少しでも良い状態となり、長く保存・活用できるようにしていきたい」と話しました。



↑ 運び込まれた作品群を検品する大林副理事長

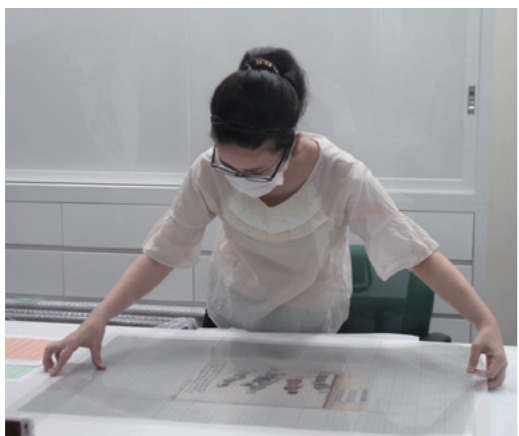
3 修復スタート

到着した山本作兵衛コレクションは、約2週間をかけてNPO法人文化財保存支援機構により、その劣化状況などを調査。その結果に基づき、今後の修復などの基本的な方針が協議、確認されました。7月23日には、いよいよ実際の保存、修復作業が開始。この日は、九州国立博物館内の保存科学室に設けられた専用の作業スペースで、文化財保存の専門家が、炭坑記録画に目盛りがついた透明のシートをかぶせ、サイズを測ったり、外観の傷み具合を調べたりといった作業を行いました。

炭坑記録画には、紙の裏に厚紙などを両面テープで貼り付けて補強している作品が多くあり、テープの接着剤が傷み

の進行や変色の原因となる場合があります。また、日記類には紙を傷めやすいインクが使われていたり、ノートをとじるための金属からさびが広がったりしており、急いで補修などの処置を行う必要がある作品が多いそうです。

大林副理事長は「文化財としては、非常に新しい時代の作品であり、だからこそ劣化しやすい素材などが使われている。日本中から専門的な知識を集めて、作業に取り組み必要がある。完全に傷む前に適切な改善処置を行えば、長く保存できるようにするのはないだろうか。そのサインをしっかりと読み取って、作品ごとに応じた処置を行っていきたい」と話しました。



↑ 本格的な修復に向けた作業が始まりました

4 世界の記憶を未来に

今回の修復などの作業は、平成26年度までの3年間の計画で行われています。

福岡県立大学で山本作兵衛氏の炭坑記録画などが公開

福岡県立大学で8月4日に行われたオープンキャンパスにあわせ、同大学の附属研究所で、山本作兵衛氏の炭坑記録画の原画などが7日までの4日間、一般にも公開されました。

今回公開されたのは、世界記憶遺産に登録され、同大学が保管する炭坑記録画2点と日記帳3点のほか、世界記憶遺産登録後、同大学に市民などから寄贈・寄託された世界記憶遺産未登録の炭坑記録画21点。

未登録作品21点が展示された附属研究所の大セミナー室には、作兵衛氏の歌うゴットン節などが流されており、観覧する人たちは、目と耳を使って炭坑記録画の世界を満喫しているようでした。

オープンキャンパスに親子で北九州市から訪れたという鈴木恭博さんは「世界記憶遺産に登録されたことは新聞などで知っていたが、見るのは初めて。リアルに詳しく描かれている、当時の状況がよく伝わってきた」と感想を話しました。



→ 原画の迫力を目の当たりにする観覧者

平成25年度には、今回運び出した炭坑記録画と入れ替わる形で、現在石炭・歴史博物館に残されている水彩画161点と墨画143点を九州国立博物館に運び出し、修復などの保存に向けた作業を行う予定です。

世界を記憶を、未来に向けて未永く伝えていくために、山本作兵衛コレクションを守っていく。市ではその保存に向けて全力で取り組んでいきます。

石炭・歴史博物館特別企画展 山本作兵衛が見た筑豊炭田Ⅱ ～炭坑をささえた女性群像～

世界記憶遺産への登録1周年を記念して、4月28日から5月27日まで原画を展示した「山本作兵衛が見た筑豊炭田」。

本年度の原画展第2弾は、炭坑の女性たちをテーマとし、女性が描かれた原画を中心に水彩画20点、墨画10点などを展示します。当時、作兵衛氏が見たであろう女性たちの姿を通して、その担った役割や生活の様子を知り、炭坑で生きた女性たちのたくましい姿を身近に感じてみませんか。

- とき 10月30日(火)～11月25日(日)
- ※11月5日、12日、19日(いずれも月曜日)は休館日。
- ところ 石炭・歴史博物館 第2展示室
- 観覧料 一般210(150)円、高校生100(70)円、小中学生50(30)円
- ※()内は20人以上の団体料金(土曜日は高校生以下無料)

【期間中に記念講演会を行います】

- とき 11月11日(日)13時30分～
- ところ 田川市美術館AVホール
- 内容 【講演】「ヤマの女たちの労働と暮らし」
講師 井手川泰子さん など

